

<資料>

2014(平成26)年度鳥取大学教員免許状更新講習実施状況

坂根祐介, 藏田修一, 柿内真紀

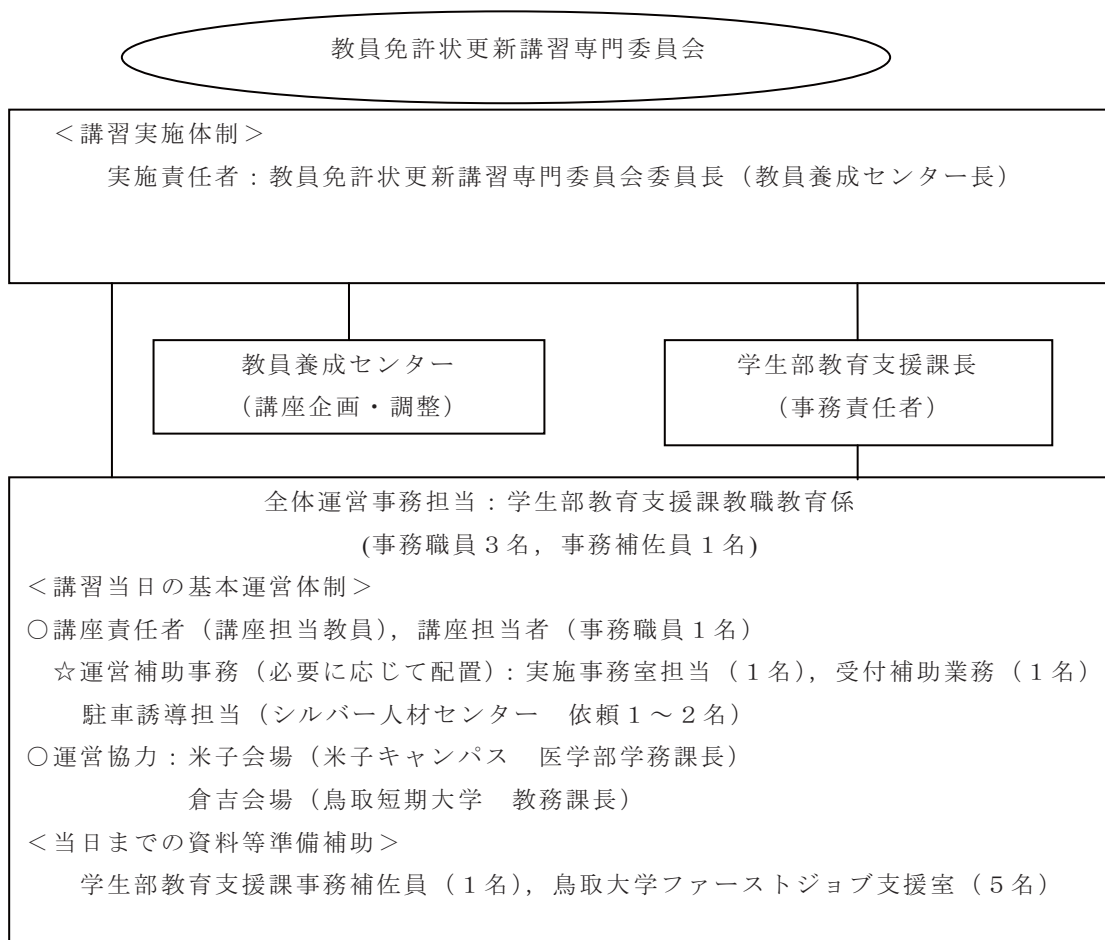
はじめに

2013年2月の大学教育支援機構の組織改組により、教育センター・教職教育部門及び附属学校連携部門を母体に、教員養成部門と附属学校連携部門の2部門を擁する教員養成センターが設置された。教員養成部門では、旧教育センター・教職教育部門から引き続き、教員免許状更新講習の講座企画およびコーディネイトを担当している。担当は、組織改組前(2009年度までは生涯教育総合センター・教職教育部門)の2008年度から7年目となった。

本稿では、2014年度の更新講習の運営体制と受講状況等を取りまとめておく。

1. 運営・実施体制

本学では講習開設にあたり、予備講習実施(2008年度)から全学レベルの教員免許更新講習専門委員会を設置し、運営事務は学生部教育支援課教職教育係が担当している。実施体制としては、本学の教員養成に関する機能強化を目的として設置された教員養成センターにおいて、センター長を中心として講座の企画・調整を行っている。



2. 受講状況

今年度は、鳥取市（鳥取キャンパス）、米子市（米子キャンパス）、倉吉市（鳥取短期大学）の県内 3 会場で、必修 4 講習、選択 50 講習（昨年度比 5 講習減）を開設した。全体の受講状況は表 1 のとおりであった。本学の特色として、地方国立大学であるが、昨年度と同じく、隣接の兵庫県北部や島根県、岡山県など県外からの受講者が 301 人と、受講者数全体の 14.6%を占めている点あげられる。

なお、必修・選択講習別の受講状況は表 2 及び表 3 のとおりである。

表 1 更新講習受講者全体状況（単位：人）

必修・選択合計 (延人数)	受講定員	受講者数	左の内訳	
			県内	県外
	2,679	2,058	1,757	301

表 2 受講状況（必修講習）（単位：人）

会場	講座の名称	講座責任者	定員	申込者数	左の内訳	
					県内	県外
米子市(7月)	教育の最新事情①	大谷直史	130	128	117	11
鳥取市(8月)	教育の最新事情②	大谷直史	180	179	145	34
鳥取市(9月)	教育の最新事情③	大谷直史	180	118	89	29
倉吉市(11月)	教育の最新事情④	大谷直史	150	128	118	10
		合計	640	553	469	84

表 3 受講状況（選択講習）（単位：人）

会場	講座の名称	講座責任者	定員	申込者数	左の内訳	
					県内	県外
米子市	生命科学：遺伝子発現による多能性と生体防御の多様性	林 眞一	40	15	11	4
鳥取市	生物多様性を中心に郷土の自然を考える－博物館を活用して－	永松 大	20	19	17	2
鳥取市	日本経済をいかに再生するか	藤田安一	50	23	19	4
米子市	森林と人間（米子）	佐野淳之	30	30	29	1
鳥取市	社会を動かすシステム ～システムを科学する～	山田 茂	40	20	18	2
鳥取市	地域と学校における健康と体力 －楽しく走る・歩く－（鳥取）	関 耕二	40	38	32	6
鳥取市	手紙を書く－鑑賞と実際－	住川英明	30	30	30	0
鳥取市	森林と人間（鳥取）	佐野淳之	30	29	22	7

会場	講座の名称	講座責任者	定員	申込者数	左の内訳	
					県内	県外
鳥取市	新しいものづくり・技術教育の理論と実践	土井康作	20	20	17	3
鳥取市	生活の中の微生物・酵素 (鳥取)	森 信寛	100	56	41	15
鳥取市	オペラでたどる西洋音楽の歴史	新倉 健	40	40	34	6
鳥取市	地域学入門	柳原邦光	100	35	26	9
鳥取市	新しい中学校理科教育の理論と実践	高橋ちぐさ	30	8	6	2
鳥取市	異文化コミュニケーション	筏津成一	30	29	27	2
米子市	児童生徒の心身の発達と諸問題, その支援・カウンセリング	菊池義人	50	49	46	3
鳥取市	「日本語」の形成	榎木久薫	40	34	25	9
鳥取市	言葉とコンピューター	村田真樹	20	7	7	0
鳥取市	新しい音楽教育の理論と実践	鈴木慎一郎	20	20	15	5
鳥取市	新しい家庭科教育の理論と実践	福田恵子	25	17	14	3
鳥取市	フランス革命とは何だったのか	柳原邦光	40	16	12	4
鳥取市	「宇宙教育」への招待	前波晴彦	25	25	17	8
米子市	弱い個人が依存しあい「強い社会」を創る	一盛 真	40	37	33	4
米子市	「日本人」になること・であること・でなくなることー「伝統と文化」、「我が国と郷土」について考えるー	一盛 真	40	39	38	1
鳥取市	基礎から分かる昆虫学	中 秀司	100	98	78	20
米子市	教員が知っておきたい生徒の健康: とっさの時の対応と心肺蘇生法の新しい教育法の紹介	本間正人	50	50	47	3
鳥取市	新しい国語科の教材づくり (小学校編)	小笠原拓	40	38	33	5
鳥取市	環境中微量元素レベルがヒト・野生動物・生態系に及ぼす影響	寶來佐和子	30	13	12	1
鳥取市	基礎物理学実験	安藤由和	20	5	5	0

会場	講座の名称	講座責任者	定員	申込者数	左の内訳	
					県内	県外
倉吉市	生活の中の微生物・酵素（倉吉）	森 信寛	50	42	32	10
鳥取市	算数・数学科「協同的な問題解決学習」の授業作り	矢部敏昭	40	28	23	5
鳥取市	地域づくりの基礎としての地理学的なアプローチ	藤井 正	30	11	9	2
米子市	新しい国語科の授業づくり（中学・高校編）	小笠原 拓	40	29	28	1
鳥取市	国際理解教育の実践と、外国にルーツを持つ子どもへの支援	御館久里恵	30	30	27	3
鳥取市	私たちの身の周りの放射線	山野好章	40	28	24	4
鳥取市	ためになる糖鎖科学（開催中止）	田村純一	30			
倉吉市	特別支援教育と生涯発達支援～乳幼児期と青年期に注目して～	國本真吾	40	39	38	1
米子市	からだきづき・からだほぐし	佐分利育代	50	50	46	4
倉吉市	絵本、読み聞かせの実践とその活用	齊木恭子	40	40	38	2
米子市	子どもと創るうごきの表現・ダンス	佐分利育代	40	40	32	8
米子市	地域と学校における健康と体力ー楽しく走る・歩くー（米子）	関 耕二	40	39	35	4
倉吉市	子どもの成長発達と音楽表現	羽根田真弓	35	35	34	1
鳥取市	鳥取砂丘の教育活用をめざしてー地理・地学編ー	小玉芳敬	24	24	18	6
鳥取市	統計のウソー統計数字で騙したり騙されたりしないために	小野達也	40	17	16	1
米子市	新しい英語教育の理論と実践	足立和美	30	21	15	6
鳥取市	植物とカビ・キノコを通して生物の不思議を学ぶ	児玉基一郎	40	40	38	2
鳥取市 （布勢総合運動公園）	児童期における体育・スポーツ指導	上野耕平	30	30	20	10
鳥取市	現代日本の財政危機と財政改革の展望	藤田安一	50	6	5	1
鳥取市	山陰海岸ジオパークエリアの動物に学ぶ群集生態学と進化	鶴崎展巨	20	20	19	1

会場	講座の名称	講座責任者	定員	申込者数	左の内訳	
					県内	県外
倉吉市	食育と栄養	野津あきこ	40	40	38	2
鳥取市	授業実践演習 (国語)	小笠原 拓	15	15	11	4
	授業実践演習 (算数)	矢部敏昭	15	9	6	3
	授業実践演習 (理科)	杉本良一	15	5	4	1
	授業実践演習 (社会)	高橋健司	15	5	4	1
	授業実践演習 (音楽)	鈴木慎一郎	15	10	8	2
	授業実践演習 (生活)	高橋千枝	15	8	6	2
	授業実践演習 (保健体育)	関 耕二	30	4	3	1
	合計		2,039	1,505	1,288	217

3. 今後の講習運営に向けて

今年度の講習運営を振り返り、講習運営に関して効果のあった点、困難だった点、及び今後の検討課題を簡単にとりまとめておく。

(1) 運営上の効果があった点

- ・必修講習は、例年と同じく東部地区（鳥取市）・西部地区（米子市）・中部地区（倉吉市、鳥取短期大学）で開設し、地理的バランスがとれた。
また、受講見込み者数の関係から、東部地区では例年どおり2講習開催し、需要に応えることができた。
- ・選択講習は、50講習開設した。受講者数の少ない講習もあったが、おおむね受講生からの評判も良く、需要に応えることができた。
- ・昨年度に引き続き、教育支援課全体で事務運営にあたった。（特に講習が集中する7月～8月）そのため事務運営に余裕を持つことができた。
- ・必修講習については、引き続き、ざぶとん、ひざかけ（選択講習については、受講生に持参することを促した）を準備する等、教室の座席等の環境改善に一定の効果があった。
- ・倉吉会場として利用した鳥取短期大学では、大講義室が改築され、会場の環境が向上し、受講者におおむね好評であった。

(2) 運営上、困難だった点

- ・台風が接近し、講習を開催すべきかどうか判断が難しい点があった。
- ・教室外で行う講習の期日設定（季節や天候との兼ね合い）が難しかった。
- ・暑い時期、寒い時期の講習で空調の準備等がうまくいかない講習があった。

- ・オープンキャンパス，大学祭等のイベントと開催時期が重なったため，運営が難しいことがあった。

（3）今後検討が必要な点

- ・講習中の緊急時対応（特に休日に急病人が出た場合）の速やかな対応が必要である。
- ・鳥取キャンパスでの必修講習（平日開催分）については，駐車スペースの関係から，例年受講生は学内に車を乗り入れて駐車しているが，駐車場所等で軽微なトラブルがあった。受講生に対して，できるだけ公共交通機関を利用して来学願うことを周知するとともに，更新講習開催についてメール等で学内に周知する等，対策を講じたい。
- ・米子キャンパス（医学部）での講習の際は，駐車スペース確保の検討や，講習を行う棟の周知を徹底する必要がある。

坂根祐介，藏田修一（学生部教育支援課教職教育係主任，係長）

柿内真紀（大学教育支援機構）